

検査結果の見方

心拍数		不整脈などの心臓や循環器系の問題を示す指標
心電図	安静時心電図	心筋梗塞・狭心症・不整脈などを調べる
胸部	胸部X線	肺・気管支・心臓などの異常を調べる
他覚症状	内科診察	医師による客観的な診察結果
胃部検査	胃部X線	胃をX線で撮影し、食道・胃・十二指腸を調べる（異常があれば胃内視鏡検査が必要）
	胃内視鏡	内視鏡で胃を直接観察し、食道・胃・十二指腸を調べる
腹部超音波		肝臓・胆のう・胆管・膵臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈などを調べる
頸部	超音波	頸動脈（首）に超音波を当てて動脈硬化の有無や程度を調べる
	MRA	磁気を用いて頸動脈を立体画像として撮影し、血管のつまりや狭窄・動脈硬化などを調べる
頭部	MRI	磁気を用いて頭部の断層画像を撮影し、腫瘍・出血・萎縮・梗塞などを調べる
	MRA	磁気を用いて脳の血管を立体画像として撮影し、動脈瘤や奇形などの異常がないかを調べる
	CT	X線で頭部の断層画像を撮影し、脳出血や脳腫瘍、萎縮の程度などを調べる
身体計測	身長・体重	体重が昨年と比べて変化したかに注目し、急な増減には要注意
	BMI・肥満度・腹囲	生活習慣病とかかわりの深い肥満をチェック
体組成分析	InBody	体脂肪量・体脂肪率・筋肉量・内臓脂肪・筋肉・脂肪など、体の成分量を測定 身体の筋肉量のバランスを知る事で、どの部位の筋力を鍛えると効果的かを確認できる
血圧		循環器・腎臓・内分泌・代謝系の異常を知る手掛かりとなる
眼圧		高値は緑内障のリスク因子となる
眼底		網膜血管や視神経を観察し、高血圧・動脈硬化・糖尿病などの影響を確認する
聴力		難聴の有無や程度を調べる
肺機能		気管支喘息・肺気腫など、肺の機能障害がないかを調べる
血液一般	赤血球数 ヘモグロビン	高値は多血症、低値は貧血の疑いがある
	白血球数	体内で細菌感染・炎症があると高値になる
	その他	血液の質や止血の能力を調べる
血液像		白血球の種類と比率を調べ、感染症・炎症・貧血・アレルギー・血液疾患などを推測する
炎症	CRP	感染症・炎症が起きたときや、膠原病などで高値を示す
梅毒	TPHA・RPR	陽性（+）の場合、梅毒が疑われる
肝炎	HBs抗原	陽性（+）の場合、B型肝炎が疑われる
	HCV抗体	陽性（+）の場合、C型肝炎が疑われる
糖代謝	血糖値	高値になると糖尿病が疑われる
	HbA1c	過去1～2ヶ月の血糖状態を示し、高値は糖尿病の疑いがある
膵機能	血清アミラーゼ	高値になると膵炎などの膵臓の病気が疑われる
筋肉	CPK	筋肉の異常を調べる
脂質	総コレステロール	高値になると、動脈硬化を起こす原因となる
	中性脂肪	食べ過ぎ・運動不足が続くと上昇し、動脈硬化や生活習慣病になる危険性が高くなる
	HDLコレステロール	血管内の余分なコレステロールを肝臓に送る役割があり、低値になると動脈硬化になる危険性が高くなる
	LDLコレステロール	高値のまま放置すると動脈硬化がすすみ、脳梗塞や心臓病の原因となる
	non-HDLコレステロール	(HDL以外のコレステロール)高値のまま放置すると動脈硬化がすすみ、脳梗塞や心臓病の原因となる

肝機能	総ビリルビン 直接ビリルビン	肝臓や胆道の状態をみる
	ALP	高値になると肝臓・胆道系の病変、または骨の病気の疑いがある
	AST (GOT)	肝細胞に多く含まれる酵素で、肝臓に障害が起こると血液中に流れ出し値が高くなる 特に、「γ-GT」はアルコール性肝障害で数値が高くなる AST(GOT)は心筋にも多く含まれ、心筋梗塞を知る手がかりになる
	ALT (GPT)	
	γ-GT	
	CHE	
	総蛋白	低値では栄養不足・肝障害が疑われる
	アルブミン	全身の栄養状態や肝障害の程度を判定する
	LDH	肝臓疾患・心臓疾患で上昇する
腎機能	クレアチニン	腎臓に障害があると高値になる
	e-GFR	腎臓のろ過する機能を調べる
	尿素窒素	高値になると腎臓の機能障害・脱水・胃腸の出血などが疑われる
	電解質	基準値をはずれると腎臓病などが疑われる
痛風	尿酸	高値になると痛風、また腎疾患などが疑われる
尿一般	糖	糖尿病を調べる
	蛋白	主に腎臓病や膀胱炎などで異常値がでる
	潜血	腎臓・膀胱で出血がないかを調べる
	ウロビリノーゲン	肝臓や腎臓に異常があると濃度が上昇する場合がある
	PH	主に尿路の感染症の発見に役立ち、他の検査の結果と合わせて診断をする
	ケトン体	糖尿病や摂食障害などを調べる
	ビリルビン	肝臓や胆道の病気を調べる
尿沈渣		尿中の沈殿物を顕微鏡で観察し、尿路疾患を調べる
便潜血		陽性 (+) の場合、大腸ポリープ・大腸がん・潰瘍性大腸炎などが疑われる
血圧脈波		両腕、両足の血圧を同時に測定し、血管のつまりや硬さを調べ、早期血管障害を見つける
甲状腺		血中の甲状腺ホルモンの分泌に問題がないかを調べる
腫瘍マーカー		主に疑われるがん 【AFP】肝臓など 【CEA】消化器、肺、乳など 【CA125】卵巣、子宮など 【シフラ】肺など 【PSA】前立腺 【SCC】肺、食道、子宮など 【CA19-9】膵臓、胆のう、大腸など がん以外の病気が原因で異常値がでる場合もあり、腫瘍マーカーだけでは病気の特定は不可 異常があった場合は精密検査が必要
胃 (血液検査)	ピロリ抗体	ピロリ菌の有無（胃の病気に深くかかわる細菌）
	ABC分類	胃がんに対するリスク判定（ピロリ抗体+ヘパシノーゲン）
CT検査	胸部CT	X線で断層画像を撮影し、主に肺について詳細に調べる
	腹部CT	X線で断層画像を撮影し、腹部の臓器を詳細に調べる
乳房	マンモグラフィ	X線で撮影し、乳がん・超音波では見つけにくい石灰化病変などがいないかを調べる
	超音波	腫瘍やしこりがないかを調べる
子宮	頸部細胞診	子宮の入り口近く（頸部）の細胞を採取し、子宮頸がんなどがいないかを調べる
	体部細胞診	子宮の奥（体部）の細胞を採取し、子宮体がんなどがいないかを調べる
HPV		子宮頸部の細胞を採取し、子宮頸がんの原因となるHPVに感染しているかを調べる
骨密度		腰と股関節の骨をX線撮影（DEXA法）し、骨粗鬆症のリスクを評価する
VSRAD		脳の萎縮の程度を診る（アルツハイマー型認知症の早期発見を支援する画像解析システム）
抗体検査		過去の感染や免疫の有無を調べる
結核	結核菌IFN-γ測定	結核菌に感染しているかを調べる